

名称：平成27年度森林総合研究所 北海道地域研究成果発表会

日時：平成27年10月15日(木) 13:30～16:00

参加者：97名

場所：札幌市男女共同参画センター 3階ホール（札幌エルプラザ内）

テーマ：「樹木に迫るー成長・繁殖・変化ー」

発表1：「樹木に肥料を撒くと成長は良くなるか？」

発表者：相澤州平

[要旨] 1950年代から1970年代にかけて、森林に肥料を撒いて収穫量を増やす目的で林地肥培研究が盛んに行われていました。森林総合研究所北海道支所（当時は林業試験場北海道支場）でも林木の成長や養分循環に対する施肥の効果を調べるため、1973年に林地肥培モデル実験林を設定し、現在も施肥を継続しています。この試験地でわかってきたことを紹介します。

発表2：「マスティング（一斉開花）の謎と意義」

発表者：韓慶民

[要旨] マスティングとは、何年かの間隔で多数の植物個体が一斉に開花する現象です。

「なぜマスティングが起こるのか?」、言い換えれば「マスティングにはどんな有利性があるのか?」については、進化的な視点からいろいろな仮説が提唱され、実証されてきました。一方、「どのようにしてマスティングが生じるのか?」という現象のメカニズムについては、樹体内の貯蔵資源（炭水化物）の蓄積と枯渇のバランスが原因とするモデル（資源収支モデル）が広く受け入れられていましたが、その正否は不明のままでした。そこで私たちはブナを用いて、この問題に挑みました。

発表3：「花が咲かねば苗木ができないー樹木の着花をコントロールするー」

発表者：福田陽子

[要旨] 樹木の着花（着果）は年によって大きく変動することが多く、林業上重要なカラマツやグイマツ、トドマツ、アカエゾマツにおいても顕著な年変動があります。造林のニーズに対応して安定的に種苗生産をするためには、種子の豊凶を気象要因から予測する手法や人工的に着花を促進する方法を確立し、種子生産性を向上させる必要があります。

発表4：「空から森林を測る」

発表者：古家直行

[要旨] 広域に広がる森林を効率よく観測（モニタリング）するために、「空から森林を測ること」が必要となります。空から、そして宇宙からと、観測は様々な方法を利用して実施されています。ランドサットという衛星は約700 km離れた宇宙から、代を変えながら1970年代から観測を継続している一方、より詳細な30cmの解像度で地上を観測する衛星もあります。また、国内では航空機による空中写真撮影が第二次世界大戦以降継続的に実施されています。森林のように長期間の変化を捉える必要がある時、このデータの継続性は非常に重要です。



開会挨拶（牧野支所長）



発表1（相澤）



発表 2 (韓)



発表 3 (福田)



発表 4 (古家)



閉会挨拶 (今井場長)